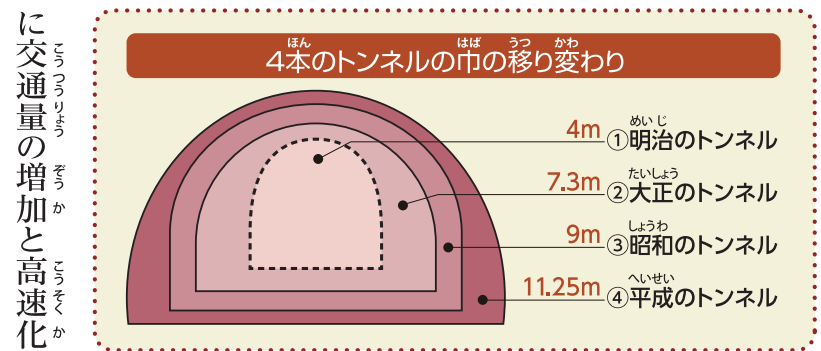


# 四つの時代のトンネル

明治時代になると徒歩が中心だった移動手段が馬車に代わるようになり、静岡と藤枝の市境にある宇津ノ谷峠は古代から交通の難所でした。「鳶の細道」として人々が歩いて越えた峠道は、トンネル（トンネル）ができて、通行する手段も自動車へと変化しました。

1876年（明治9年）、約15万の人員をかけて2年がかりでトンネルが完成しました。建設に使った莫大な費用を回収するため、日本で初めての有料トンネルとなりました。火災によって一時通行不能になりましたが、1904年（明治37年）、レンガ造りになってよみがえり、「明治のトンネル」として今もその姿を維持しています。



## その後、急速な自動車の普及により、大正時代の終わりから昭和の初めにかけて新たに「大正のトンネル」が造られました。さら

その後、急速な自動車の普及により、大正時代の終わりから昭和の初めにかけて新たに「大正のトンネル」が造られました。さらに「昭和のトンネル」が造られました。昭和7年には人や自転車に乗る人も通ることができるよう「平成のトンネル」が登場しました。宇津ノ谷峠には「鳶の細道」と旧東海道を含めて合計6本の道があります。いにしえから現代までの歴史を感じてみませんか。

火災の後、1904年によみがえった「明治のトンネル」

（監修：近江俊秀・文化庁文化財第二課主任文化財調査官、中村羊一郎・静岡市歴史博物館長、本郷和人・東京大史料編纂所教授）